

セクション1: 化学物質特定情報および会社情報**製品特定情報**

製品形態 : 混合物
製品名 : WL-13

該当物質または混合物の関連特定用途および使用禁止用途

物質／混合物の用途 : ねじ切りニードル・バルブ、レギュレーター・コンポーネント、Dシリーズ・バルブねじ込みコンポーネント、ステム・チップにご使用ください。
使用上の制限 : 推奨されている用途は特定されていません。

安全データシートの提供者に関する詳細

株式会社ヴィーガ・マニュファクチャリング
29495 F.A. Lennon Drive
Solon, Ohio 44139
1-440-349-5600

www.swagelok.com

緊急時の連絡先電話番号

緊急連絡先電話番号 : Infotrac: 1-800-535-5053 (北米)、1-352-323-3500 (国際)

セクション2: 危険有害性の要約**物質または混合物の分類****GHS-JP分類**

物理的危険性 : 未分類
健康に対する危険有害性 : 生殖細胞変異原性、区分2
: 生殖毒性、追加区分、授乳に対するまたは授乳を介した影響
: 特定標的臓器毒性(単回暴露)区分2
環境有害性 : 水生環境有害性 - 急性危険区分3

ラベル要素

有害性に関する絵表示(GHS-JP) :



注意喚起語(GHS-JP) : 警告
危険有害性情報(GHS-JP) : 遺伝子異常惹起の疑い(H341)。
授乳中の子に害を及ぼすおそれ(H362)。
臓器(血液)に障害を引き起こすおそれがある(H371)。
水生生物に有害(H402)。
安全対策注意書き : 使用前に取扱説明書入手すること。(P201)。
安全上の注意をすべて読み、よく理解した上で取り扱うこと。(P202)。
蒸気、ミスト、噴霧などを吸入しないこと。(P260)
妊娠中および授乳中の接触は避けること。(P263)。
取扱い後は手、前腕部、顔をよく洗うこと。(P264)。
本製品の使用時には飲食または喫煙をしないこと。(P270)。
環境への放出を避けること。(P273)
保護手袋、保護衣、保護眼鏡を着用すること。(P280)
対応の注意書き : 暴露した場合や暴露が懸念される場合: 毒物センターまたは医師に連絡すること。(P308+P311)。
暴露した場合や暴露が懸念される場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313)。
保管の注意書き : 施錠して保管すること。(P405)。
廃棄の注意書き : 内容物／容器は国際／国／都道府県／市区町村の規則に従って廃棄すること(P501)

その他の危険有害性

分類につながらないその他の危険有害性 : 既存の眼疾患、皮膚疾患、または呼吸器系疾患がある場合は、暴露によりこれらの疾患が悪化するおそれがある。

WL-13

安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

セクション3: 組成 / 成分情報

物質または混合物の識別 : 混合物

名称	別名	濃度	化学式	公報リストの参照番号		CAS番号
				CSCL番号	ISHL番号	
亜硝酸ナトリウム	ジアゾ化塩/亜硝酸、ナトリウム塩/亜硝酸、ナトリウム塩 (1:1)	2%未満	HNO2.N a	(1)-483	(1)-483	7632-00-0

セクション4: 応急措置

応急措置の説明

- 一般的な応急措置 : 意識のない場合は、口から何も与えてはならない。気分が悪い場合は、医師の診察を受ける(可能な場合は製品のラベルを提示する)。
- 吸入した場合の応急措置 : 症状が発生した場合: 屋外に退避し、暴露の疑いのある区域の換気を行う。呼吸困難が続く場合は、医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合の応急措置 : 汚染された衣類を脱ぐ。多量の水と石鹸で洗うこと。汚染された部位を水で15分以上洗い流す。暴露した場合や暴露が懸念される場合: 医師の診察 / 手当てを受けること。
- 眼に入った場合の応急措置 : 水で5分以上注意深く洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。刺激が生じた場合や、刺激が続く場合は、医師の診察、手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合の応急措置 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。医師による手当てを受けること。
- 応急処置をする者の保護と対策 : 呼吸用保護具を含む適切な保護具を着用していない者は、火災発生エリアに立ち入ってはならない。

最も重大な症状および影響(急性および遅延性)

- 症状 / 影響 : 臓器(血液)に障害を引き起こすおそれがある。授乳中の子に害を及ぼすおそれがある。遺伝子異常惹起の疑い。
- 吸入した場合の症状 / 影響 : 長時間暴露により、炎症を引き起こすおそれがある。
- 皮膚への接触後の症状 / 影響 : 長時間暴露により、皮膚の炎症を引き起こすおそれがある。
- 眼に入った場合の症状 / 影響 : 眼にごく軽度の刺激を引き起こすおそれがある。
- 飲み込んだ場合の症状 / 影響 : 飲み込むと有害な影響を及ぼすおそれがある。メトヘモグロビン血症が起こることがあり、特に大量に摂取した場合はそうです。メトヘモグロビン血症は、血液が酸素を運ぶ能力を低下させ、めまい、眠気、頭痛、息切れ、皮膚や唇の青み、心拍数の上昇、意識不明、場合によっては死亡などの症状を引き起こします。
- 慢性症状 : 遺伝子異常惹起の疑い。

医師による即時の手当ておよび特別な治療の適応となる症状

ばく露した場合やばく露が懸念される場合には、医師の診察、手当てを受けること。医師の診察が必要な場合は、製品の容器やラベルを持参すること。

セクション5: 火災時の措置

消火剤

- 適切な消火媒体 : 水噴霧、水霧、二酸化炭素(CO₂)、耐アルコール性泡消火剤、粉末消火剤。
- 不適切な消火媒体 : 強力な放水を使用してはならない。強力な放水の使用により火災が拡大するおそれがある。

物質または混合物に由来する特別な危険有害性

- 火災危険性 : 可燃性ではないが、高温では燃焼するおそれがある。
- 爆発危険性 : 本製品には爆発性はない。可燃性粉塵である物質を含む。材料をさらに加工し、粉塵を蓄積させると、空気中に可燃性粉塵濃度が形成され、発火して爆発を引き起こすおそれがある。
- 反応性 : 通常の条件下では有害な反応は発生しない。

消火時の注意事項

- 火災に関する予防措置 : 化学物質による火災の消火は慎重に行う。
- 消火時の指示 : 露出した容器の冷却には水噴霧または水霧を使用する。

WL-13

安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

- | | |
|---------|---|
| 消火時の防護 | : 呼吸用保護具を含む適切な保護具を着用していない者は、火災発生エリアに立ち入ってはならない。 |
| 有害燃焼生成物 | : 炭素酸化物(CO、CO ₂)。窒素酸化物。酸化モリブデン。硫黄酸化物。 |
| その他の情報 | : 消火活動の際の流出物が排水設備や水路に入らないようにすること。 |

セクション6: 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

- | | |
|-------------------|---|
| 一般的な措置 | : 漏出した製品はスリップの危険がある。眼、皮膚、衣類への接触はしないこと。蒸気、ミスト、噴霧を吸引しないこと。 |
| 二次災害の防止策 | : 当該領域の換気を行う。 |
| 緊急救援隊以外の人員 | |
| 保護具 | : 適切な個人用保護具(PPE)を使用する。 |
| 緊急措置 | : 不必要な人員を退避させる。 |
| 緊急対応にあたる人員 | |
| 保護具 | : 浄化担当スタッフに適切な保護具を着用させる。 |
| 緊急措置 | : 現場に到着したら、まず危険なものがないことを確認し、自分自身や人々の身の安全やその付近の安全を図り、状況が許し次第、訓練された人の支援を求める。当該領域の換気を行う。 |

環境に関する注意事項

下水および公共用水への流入を防止する。環境への放出を避けること。

封じ込めおよび浄化の方法・資材

- | | |
|------|--|
| 封じ込め | : 漏出した物質を防壁または吸収材で封じ込め、移動および下水や水路への流入を防止する。 |
| 浄化方法 | : 漏出した物質を迅速に除去し、回収した物質は安全に廃棄する。漏出した物質を廃棄に適した容器に移す。漏出の発生後に、監督官庁に通報する。 |

他のセクションの参照事項

暴露防止と保護措置についてはセクション8を、廃棄上の注意についてはセクション13を参照すること

セクション7: 取扱いおよび保管上の注意

安全な取扱いに関する注意事項

- | | |
|-------------------|---|
| 加工時の追加的有害危険性 | : 可燃性粉塵である物質を含む。乾燥して蓄積すると、空气中に可燃性粉塵濃度が形成され、発火して爆発を引き起こすおそれがある。適切な予防策を講じる。 |
| 技術的対策 | : 高温加工における本製品の使用に際しては、定められた安全動作条件が確立され、維持されていることを確認するために、徹底的な評価を行うことが求められる。 |
| 安全取扱い注意事項 | : 使用前に取扱説明書を入手すること。安全上の注意をすべて読み、よく理解した上で取り扱うこと。妊娠中／授乳中の接触は避けること。ミスト／蒸気／噴霧を吸引しないこと。眼に入ること、皮膚、衣類への接触は避けること。飲食や喫煙の前、および作業場を離れる際には、手やその他の露出した部位を刺激性の少ない石鹼と水で洗浄する。 |
| 混触危険物質や混合物の取扱いを防止 | : 次のものを避けること: 強酸、強塩基、強酸化剤。 |
| 衛生対策 | : 労働安全衛生手順に従って取り扱うこと。 |
| 局所および一般的な換気 | : 十分な換気を確保する。 |

安全な保管の条件(混触危険性を含む)

- | | |
|--------|--|
| 技術的対策 | : 適用される規則を遵守する。 |
| 保管条件 | : 使用していない場合は、容器を閉めておく。乾燥した涼しい場所に保管すること。直射日光、極端な高温または低温、混触危険物質を避けて維持／保管すること。安全な場所に施錠して保管すること。 |
| 混触危険物質 | : 強酸、強塩基、強酸化剤。 |

特定の最終用途

ねじ切りニードル・バルブ、レギュレーター・コンポーネント、Dシリーズ・バルブねじ込みコンポーネント、ステム・チップにご使用ください。

WL-13

安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

セクション8:ばく露防止および保護措置

管理基準

追加情報なし

生物学的限界

追加情報なし

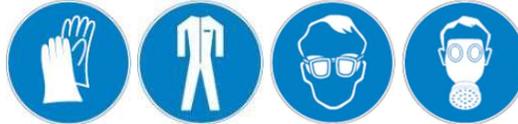
暴露防止

適切な工学的管理

: 暴露の危険性のある区域の近くに、目の洗浄および身体洗浄に適した設備を設置しなければならない。特に狭いエリアでは、十分な換気を確保すること。国/地方公共団体の規則を確実に遵守する。

個人用保護具

: 手袋。保護衣。保護ゴーグルまたは保護眼鏡 換気が不十分な場合:呼吸用保護具を着用する。



保護衣の素材

: 耐化学物質性の素材および繊維

手の保護

: 保護手袋を着用すること。

眼および顔面の保護

: 化学薬品対応の安全ゴーグルまたはサイドシールド付き安全眼鏡。

皮膚および身体の保護

: 適切な保護衣を着用すること。

呼吸器系の保護

: 暴露限界値を超えるか、呼吸器への刺激が発生した場合は、認証済みの呼吸用保護具を着用する必要がある。換気が不十分な場合や、酸素不足、または暴露レベルが不明な場合は、認証済みの呼吸用保護具を着用すること。

熱危険性の防護

: 追加情報なし

その他の情報

: 本製品の使用時には飲食または喫煙をしないこと。ミスト/蒸気/噴霧を吸引しないこと。

セクション9:物理的および化学的性質

基本的な物理的・化学的性質に関する情報

物理的状態

: 液体

外観

: 濃い灰色のペースト

色

: データなし

臭い

: 石油

臭いの閾値

: データなし

pH

: データなし

蒸発速度

: データなし

融点

: データなし

凝固点

: データなし

沸点

: データなし

引火点

: 224°C(435°F)

自然発火温度

: データなし

分解温度

: データなし

燃焼性

: データなし

蒸気圧

: データなし

相対蒸気密度(20°C)

: データなし

密度

: 0.9g/cm3

相対密度

: データなし

溶解度

: 水:不溶解性

分配係数:N-オクタノール/水

: データなし

粘度

: データなし

動粘度

: データなし

爆発限界

: データなし

粒子特性

: データなし

その他の情報

追加情報なし

WL-13

安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

セクション10: 安定性および反応性

反応性

通常の条件下では有害な反応は発生しない。

化学的安定性

推奨される取扱いおよび保管条件下にある場合は安定(セクション7を参照)。

有害反応の可能性

有害な重合は発生しない。

避けるべき条件

直射日光、極端な高温または低温、混触危険物質

混触危険物質

強酸、強塩基、強酸化剤

危険有害な分解生成物

熱分解により、以下を生成する場合がある: 炭素酸化物(CO、CO₂)。酸化モリブデン。窒素酸化物。硫黄酸化物。

セクション11: 有害性情報

毒性影響に関する情報

- 考えられる暴露経路 : 経皮、眼への接触、吸入、経口
急性毒性(経口) : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
急性毒性(経皮) : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
急性毒性(吸入) : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

亜硝酸ナトリウム(7632-00-0)

LD50 経口 ラット	85mg/kg
LC50 吸入 ラット	5.5mg/L/4時間

- 皮膚腐食性/刺激性 : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
眼に対する重篤な損傷性/刺激性 : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
呼吸器感受性 : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
皮膚感受性 : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
生殖細胞変異原性 : 遺伝子異常惹起の疑い。
発がん性 : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
生殖毒性 : 授乳中の子に害を及ぼすおそれがある。
特定標的臓器毒性(STOT) - 単回暴露 : 臓器(血液)に障害を引き起こすおそれがある。
特定標的臓器毒性(STOT) - 反復暴露 : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
吸引力呼吸器有害性 : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
その他の情報 : 追加情報なし

セクション12: 環境影響情報

毒性

- 水生環境有害性、短期(急性) : 水生生物に有害
水生環境有害性、長期(慢性) : 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

亜硝酸ナトリウム(7632-00-0)

LC50 魚類	0.19 mg/l(暴露時間:96時間 - 種類:ミクス菌 [フロースルー] 出典:EPA)
EC50 甲殻類	15.4mg/L
LC50 魚	0.54 mg/l(種類:オンコリヒンクスミクス)
NOEC 慢性藻類(Chronic Algae)	100 mg/l

残留性および分解性

WL-13	
残留性および分解性	立証されていない。

WL-13

安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

生物蓄積性の可能性

WL-13	
生物蓄積性の可能性	立証されていない。
亜硝酸ナトリウム(7632-00-0)	
分配係数 n-オクタノール/水(Log Pow)	25°Cで-3.7

土壤中の移動性

追加情報なし

その他の有害な影響

- その他の有害な影響 : 知見なし。
- オゾン層への有害性 : 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。
- その他の情報 : 環境への放出を避けること。

セクション13: 廃棄上の注意

廃棄物処理方法

- 下水への廃棄に関する勧告 : 下水へ廃棄物を流さないこと。
- 推奨される廃棄方法 : 内容物/容器は国際/国/都道府県/市区町村の規則に従って廃棄すること。
- 生態系 - 廃棄物質 : 環境への放出を避けること。本物質は水生環境に有害な物質である。下水と排水溝への流入を防止すること。

セクション14: 輸送上の注意

この輸送上の説明は、SDSの起草時点で想定された内容に従って記述されており、基準となる変数が、SDSが発行された時点で既知であった、あるいは、未知であったため、変動することがある。

UNRTDGに準拠

輸送規制なし

IATAに準拠

輸送規制なし

IMDG/IMOに準拠

輸送規制なし

MARPOL条約の付属書類IIおよびIBC Codeに従うばら積み輸送

該当なし

その他の情報

- その他の情報 : 補足情報なし

セクション15: 適用法令

適用法令

亜硝酸ナトリウム(7632-00-0)
規制参考情報 米国有害物質規制法(TSCA)インベントリに収載 - ステータス:アクティブ カナダDSL(国内物質リスト)に記載 EECインベントリ-EINECS(欧州既存商業化学物質インベントリ)に記載 カナダIDL(成分開示リスト)に記載 米国SARA第313条の報告要件に従う オーストラリア産業化学品導入スキーム(AICISインベントリ)の紹介 PICCS(フィリピン化学品・化学物質インベントリ)に記載 日本のENCS(既存および新規化学物質)インベントリに記載 KECL/KECI(韓国既存化学物質インベントリ)に記載 IECSC(中国で製造または輸入された既存化学物質一覧)に記載 日本の毒劇物取締法 NZIoC(ニュージーランド化学物質インベントリ)に記載 日本のISHL(労働安全衛生法)に記載 INSQ(メキシコ化学物質インベントリ)に記載 TCSI(台湾化学物質インベントリ)に記載

WL-13

安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

NCI(バトナム - 国家化学物質インベントリー)に記載
タイ既存化学物質インベントリー(DIW)に記載

セクション16:その他の情報

作成日または最新改訂日 : 2024/07/03
参考文献 : 本書は日本の危険有害性周知基準である安全データシート(SDS)の要件JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準じて作成された。

データソース略語の用語集

ATSDR: 有害物質・疾病登録庁(米国保健福祉省)	FOOD_JOURN: Food Research Journal(1956年)
AU_WES: オーストラリアWES	IARC: 国際がん研究機関
CHEMVIEW: ChemView(米国環境保護庁)	IDLH: 米国国立労働安全衛生研究所の急性の毒性限度(「生命または健康に対する差し迫った危険」の値プロファイル)
EC_RAR: 欧州委員会更新評価報告書	IUCLID: 国際統一化学情報データベース
EC_SCOEL: 欧州委員会職業暴露限界に関する科学委員会	JAPAN_GHS: 分類データに関する日本のGHS基準
ECETOC: 欧州化学物質生態毒性・毒性センター	JP_J-CHECK: 日本 J-Check
ECHA_API: 欧州化学品庁API	KR_NIER: 韓国国立環境科学院の評価
ECHA_RAC: ECHAリスク評価委員会	NICNAS: オーストラリア国家工業化学品届出審査機構
EFSA: 欧州食品安全機関	NIOSH: 米国労働安全衛生研究所(米国保健福祉省)
EPA: 米国環境保護庁	NLM_CIP: 米国国立医学図書館ChemIDplusデータベース
EPA_AEGL: 急性暴露ガイドラインレベル(米国環境保護庁)	NLM_HSDB: 米国国立医学図書館有害物質データバンク
EPA_FIFRA: 連邦殺虫剤・殺菌剤・殺鼠剤法再登録資格決定(米国環境保護庁)	NLM_PUBMED: 米国国立医学図書館PubMedデータベース
EPA_HPVS: 大量生産化学物質(米国環境保護庁)	NTP: 国家毒性プログラム
EPA_TRED: 許容度再評価の適格性判断に関するリスク評価(米国環境保護庁)	NZ_CCID: ニュージーランド化学物質分類および情報データベース
EU_CLH: 欧州連合調和分類およびラベリング提案	OECD_EHSP: 環境・健康・安全に関する出版物(経済協力開発機構)
EU_RAR: 欧州連合リスク評価書	OECD_SIDS: スクリーニング情報データセット(経済協力開発機構)
	WHO: 世界保健機関

本情報は現有知識をもとにしており、健康、安全、環境面での要件のみを目的に製品の特徴を記載したものである。よって、製品の個別の特性を保証すると解釈されることがあってはならない。

日本 GHS SDS